

小
丹波地誌

遠藤茂平纂輯
京都府管下部
全

特31

252

館函架號			
大日本教育會館			
室		第	
三	七	二	三
冊	號	架	函

025537-000-9

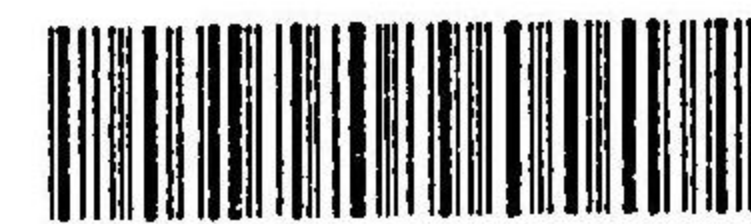
特31-252

丹波地誌 一京都府管下部一

遠藤 茂平 / 編

M15

ADC-3025



明治十五年新年刻

田中源太郎 閱
安原時太郎 校定
遠藤茂平 纂輯

定價金拾三錢

京都府管下ノ部

小學丹波地誌 全

御用書林 村上勘兵衛

特31
252

小學丹波地誌

凡例

一凡テ小學生徒ニ地理ヲ授クルニハ敢テ繁冗緻密ニ
涉ルヲ要セス只須ク其耳目ニ感觸シ易キヨリ入ル
ベシ故ニ此書山川都邑道路驛郵勝地沿革ヨリ生業
產物ニ至ルマテ悉ク其梗概ヲ掲ケ生徒ヲシテ因テ
以テ全州地理ノ一端ヲ識ラシム

一此書多紀永上ノ兩郡ハ兵庫縣ノ所轄ニ屬スルヲ以
テ姑ク之ヲ省ク而テ上欄ニ錄スル所ハ則參看ニ便
スルニ出ツルト雖モ其須要ナルモノニ至リテハ亦

東

小學丹波地誌

首

明治十五年新年刻

田中源太郎 閣下
安原時太郎 校定
遠藤茂平 纂輯

定價金拾三錢

京都府管下ノ部

小學丹波地誌 全

御用書林 村上勘兵衛

特31
252

小學丹波地誌

凡例

一凡テ小學生徒ニ地理ヲ授クルニハ敢テ繁冗緻密ニ
涉ルヲ要セス只須ク其耳目ニ感觸シ易キヨリ入ル
ベシ故ニ此書山川都邑道路驛郵勝地沿革ヨリ生業
產物ニ至ルマテ悉ク其梗概ヲ掲ケ生徒ヲシテ因テ
以テ全州地理ノ一端ヲ識ラシム

此書多紀永上ノ兩郡ハ兵庫縣ノ所轄ニ屬スルヲ以
テ姑ク之ヲ省ク而テ上欄ニ錄スル所ハ則參看ニ便
ニ出ツルト雖モ其須要ナルモノニ至リテハ亦



小學丹波地誌

首

空ク生徒ヲシテ之ヲ記誦セシムベキナリ
 一全編戸口及別地價租稅ノ如キ總テ本年一月ノ統計
 ニ係ル又行文ノ間右傍ニ雙柱ヲ施ス者ハ地名ニシ
 テ左傍ニ單柱ヲ施ス者ハ人名ナリ
 一書中疏漏訛謬ナキヲ必シ難シ冀クハ識者ノ指摘ヲ
 俟テ直ニ之ヲ修正セン

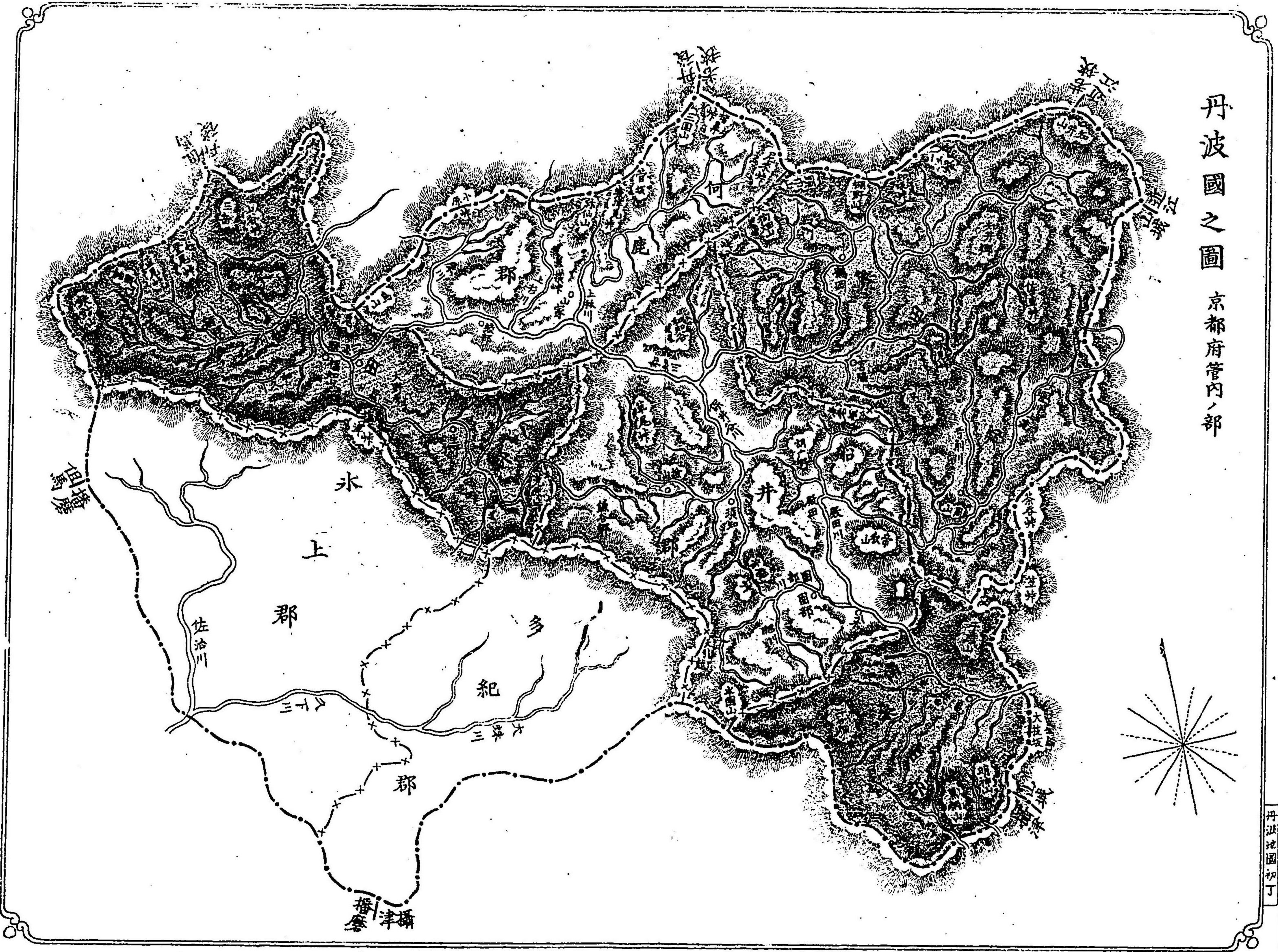
明治十五年九月

編者識

丹波國之圖 京都府管内ノ部



丹波國之圖 京都府管内ノ部





丹波國之圖 京師領内ノ地

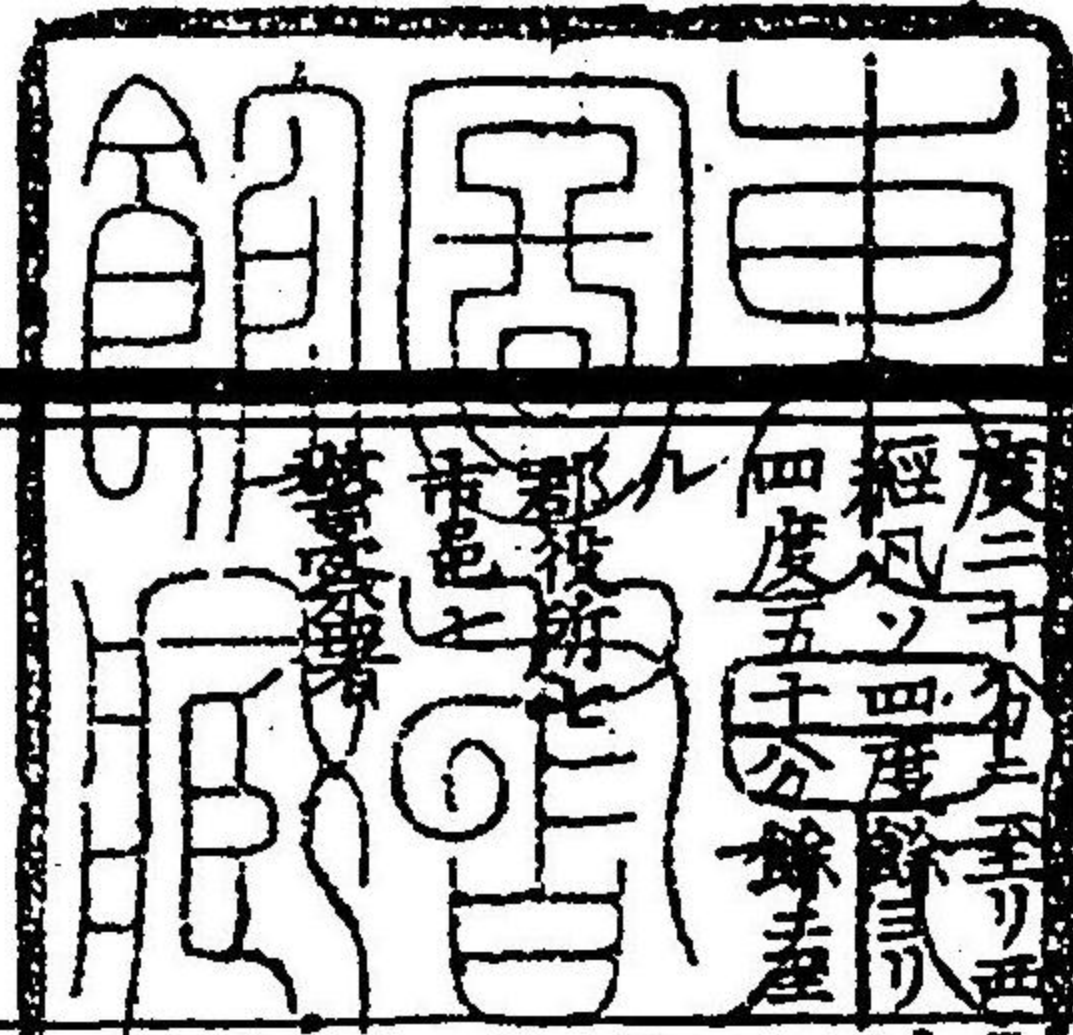
小丹波地誌

田中源太郎 閱
 安原時太郎 校定
 遠藤茂平 纂輯

第一章

總論

丹波國ハ山陰道ノ東部ニ位シ。東ハ山城ト土壤ヲ連
 ぬ。西ハ但馬ト疆界ヲ接シ。南ハ攝津ニ續キ。北ハ丹後
 若狹ニ隣ル。而シテ西南ノ一隅播磨ニ界シ。東北ノ一
 角僅ニ近江ト相交ル。其廣袤東西ハ凡々十四里ニ過
 ぎ。南北ハ凡々十二里あり。
 此國ハ峯巒ノ多キこと山陰道第一あり。其山城ノ疆



一ニ丹州又総領下
 稱ス
 北緯凡ソ三十四度
 五十分ヨリ三十五
 度ニ至ル
 經凡ソ四度餘ヨリ
 四度五十分餘至ル

域ふハ。大枝茶吞芥生の諸山相連リ。若狹の境上ふハ。知井五波八ヶ峰棚野頭巾尼來三國の諸嶺相並び。而して此間山勢皆秀拔。樹林暢茂。雲霧往來して。蒼嶺の出没する恰モ鳴嶼の搖波よ於けるが如し。

丹後の界ふハ。護摩管坂鬼ヶ城三嶽の山峰相列リ。但馬の界ふハ。登尾直見牛尾富岡鐵鉦の嶂嶺相聳え。播磨の間ふ。脛摺只越の諸岳あり。攝津の間ふ。半國明神神尾の諸峰あり。又國中ふハ。畑山草尾篠八尾栗鹿の亂山。各處ふ起伏セリ。國中溪間より發まる川流凡そ數十條あり。而して其

畑山八尾山ハ多紀郡ニアリ
篠栗鹿ノ上郡ニアリ

保津川源ヨリ淀川マテ長五十五里間
三町三間
佐治川源ヨリ播磨界マテ長九里間
十間
和知川ハ源ヨリ丹後界マテ長二十三里間一町

龜岡ト檜原ノ間
里七町余

水地勢ふ隨ひ。總て三方ふ分流也。其東南方ハ衆水相聚りて保津川と稱し。東下りて山城ふ入り桂川とあり。西南方ハ諸川相會して佐治川と曰ひ。西流して播磨ふ下り加古川とあり。北方ハ數流相合して和知川と曰ひ。北向して丹後ふ入り由良川となる。市邑ハ龜岡園部綾部福知山篠山柏原山家の六ふいて。皆河流ふ浴ふて要地を占む。中ふ就て較繁華ある者ハ。保津川の岸ある龜岡。和知川の上りある福知山。及び久下川ふ瀕せる篠山の三邑ふ過ぎ也。龜岡より山城の葛野郡檜原ふ達するを。山城街道と

龜岡ト久畑村間
二十里二十町余
植生ト和田村間
十里餘

曰ひ。八木園部須知生野福知山佐々木を経て。但馬の
出石郡久畑村に到るを。但馬の東街道と曰ひ。植生及
び多紀郡の福住篠山。氷上郡の柏原遠坂を経て。朝來郡
和田山村小通るを。其西街道と曰ふ。

福知山下宮津間
八里五町余

福知山下宮津間
八里五町余
小到る。宮津街道より。須知鷹栖梅迫を過き。舞鶴
に達する。舞鶴街道あり。園部より殿田板橋知見の
諸村を過ぎ。若狹の遠敷郡堂本村に到る。小濱街道
より。千坂越より係り。

園部ト小濱間
三里四町余

龜岡ト餘野間
三里三十町

攝津街道の龜岡より。攝津の能勢郡餘野に到るを本

篠山下廣野間
七里十一町

篠山下上鴨川村
間七里二十町

柏原ト中村間
五里三十町

路と。篠山より古市を過き。有馬郡廣野村に出づるを
其別路と。又播磨路の篠山より古市市原を過き。播
州加東郡上鴨川村小通るを本街道と。柏原和田
村を經。多可郡中村に到るを其別路と。

其氣候ハ山國あるを以て寒暖常を失ひ。又冬時ハ積
雪多く。行人往々其擁塞ハ苦む。而して極暑ハ
寒暖計八十三四度ハ昇り。極寒ハ二十七八度ハ降る。
土壤凡て山地に属するを以て。礫确の處尤も多し。獨
り龜岡園部福知山篠山の邊りハ。稍平坦より膏腴
あり。民俗ハ概ね淳樸より善く生業ハ勵む。其生計

ハ農を最も多しとすまるとも。山中に至りてハ樵を業
とむるもの亦多し。物産ハ農産物及び木材を最とす。
殊ニ其煙艸ハ古よりの名産ふして。内國の輸出尤も
盛んなり。

全國之を七郡に分つ。西北ハ北桑田何鹿天田の三
郡並列し。東南ハ南桑田多紀氷上の三郡相連り。獨
り船井郡ハ國の中央に夾ままり。而して南北桑田の
兩郡ハ原と一の大郡ふりし。地勢相殊し。人情亦自
ら異なるを以て。明治十二年。之を南北の二に分てり。戸
數ハ凡そ六萬八千五百餘ありて。人口凡そ二十九萬二千五

百餘とす。

往古國府を船井郡屋賀村に置き。全州を鎮撫せり。既
あして源賴朝の時。土肥實平を以て本州の守護代と
なし。建武の朝千種忠顯を國司に任し。碓井景盛守護
代たり。足利尊氏の王家に忤ふ不及ひ。仁木賴章を
て州内を略せしめ。賴章の子義尹を以て其守護とす。
正平中山名時氏。南朝に皈して全州を平定す。尋て山陰
道諸州を以て王室に畔き足利氏に黨し。亦守護を領
す。其後時氏の第四子氏清職を襲く。元中八年足利氏
に反して誅死す。是に於て足利義滿。細川賴元を以て

守護とふ。其五世政元家人の爲に弑せらる。實に天正四年あり。此時に當り義子高國澄之澄元の三人あり。澄之代り立ちし。尋て澄元を殺さる。是に於て高國兵を擧げ。澄元を走らし州郡を定む。

其後大永中波多野植通八上城に據り。近郡を侵略し。自ら國主と稱す。傳へて秀治に至る。天正七年織田信長。明智光秀をして波多野氏を討し州内を平けしめ。光秀を龜山に封じ。同十年光秀誅死の後。豐臣秀吉義子秀勝を福知山に。前田玄以を八上に封じ。文祿中秀勝卒し嗣なきを以て。其後を小野木公郷に與ふ。關ヶ

原の役。公郷石田三成に與するを以て其封を没し。之れを有馬豊氏に賜ふ。後朽木植昌之を代る。

八上城主前田玄以の子茂勝。故ありて其封を收めらる。松平康重之を代る。既にして封を笹山に徙せし。其後青山忠朝篠山を領す。其他州中に封を受くる者。龜山に松平氏あり。園部に小出氏あり。柏原に織田氏あり。綾部に九鬼氏あり。山家に谷氏あり。皆徳川氏の封する所ありて凡そ七藩。廢藩置縣の際。京都府豐岡縣の兼治する所ありし。今多紀氷上の二郡に。兵庫縣に屬し。其餘南北粟田何鹿船井天田の五郡に。京都府

の管轄する所なり。

第二章 南桑田郡

郡所^ノ高岡^ノ置
市邑一
村落九十二
小学校二十一
反別壹万二千八百
六十一町四畝二十
六段二里
地價二百七十五
千二百六十七箇
二錢三厘
地租五万八千八百
十一町四十八段
一厘

南桑田郡ハ州の東南ニ位シ。東ハ一帯の山脈を以て山城の葛野乙訓の兩郡と界シ。西北ハ船井郡ニ接シ。南ハ群岳相層リテ。攝津の島上能勢の兩郡ニ突出シ。北ハ旭村を以て。北桑田郡神吉村と相隣ル。龜岡の南方。高く群山の中ニ秀テ。頗る峻峻あり。其頂上より東南山城攝津を下瞰シ。西北州内の數郡を遠眺スベシ。而シテ其西ニ黒柄山の高峻あり。湯谷山ハ攝津の國界ニ聳エ。湯谷村ヨ

リ攝津の能勢郡錢原村小到る間道の西ニあり。重利東掛の諸村を過ぎ。攝津の嶋上郡清坂村ニ出ヅベシ。其東篠村の南ニ。加勢野と稱スル地あり。傳フ昔一細川忠興攝州ヨリ兵を帥ヒ此地小次まると。因テ合戰野とも稱ス。大枝坂ハ龜岡ヨリ篠王子の諸村を經。山城の檜原ヨリ到る國界ニありテ。即チ京都街道あり。方今王子村ヨリ山城沓掛村ニ至るの間。直經百餘間。墜道を鑿チ以テ車を通スルの便を謀らん。と。篠村ヨリ八幡社ありテ。堂宇宏壯あり。境内ニ矢塚及ヒ旗立の柳あり。足利尊氏の遺趾と云フ。

出雲神社



唐櫃越の王子村より。山城の松尾谷より通る間道より。頗る嶮惡あり。水尾越の保津川より。山城の愛宕山の麓より出づる嶮路あり。往來尤も苦む。其保津村の保津川の北岸よりあり。戸數三百餘。村中より文覺寺あり。其東保津谷ハ。山水秀媚より。殆んど畫圖より。

似たり。溪側より請田社あり。保津の一川を隔て。山本村の桑田社と相對し。一段の風景を爲す。

千歳山ハ郡の東北。千歳村の東より聳え。牛松山其東南より屹立し。頂上より遙き山城の東山を望む。西麓千歳村より出雲社あり。官幣中社より。堂宇極めて

莊嚴あり。其東南國分村より。國分寺あり。馬路村ハ此の西よりありて。戸數四百餘。百合根綿大豆等を産す。

龜岡より西より赴き。船井郡八木より到る。但馬の東街道より。同郡殖生より通る。其西街道より係る。芦山村より東加舎村を過ぎ。攝津の能勢郡より出づる。有馬

出雲社三穂津姫ヲ祀ル和銅四年創建

權宗寛永十八年後
水尾帝ノ勅ニ依テ
創建シ僧寺ノ開
基寺城邊方四百十
四坪

街道と云。其西千ヶ畑村に法常寺の大伽藍あり。其名古より著しく。加ふるに風景の地たり。此より東行數里ふいて。半國山の東麓土ヶ畑村に達す。山中の一僻村ふいて。其間多く薪炭を鬻ぎ。以て生計とらるるのこ。獨鉆掘山の郡の西偏。鹿谷村の北に位し。其山上に瑞巖寺の禪刹あり。觀音を安置す。賽者常より多し。其南柳花村にハ櫻天神の社あり。其境内櫻の紋理を顯せる奇石多し。俗之を櫻石と曰ふ。龜岡の西餘部村より東南に赴き。寺東掛の諸村を経て。攝津の島上郡に達する山路あり。其寺村より以西の數村を。六ヶ谷と稱す。

南方の村落を南山家と總稱す。

保津川の州の東南。諸水の合流する處ふいて。其水船井郡より來り。龜岡の北を過き。東向して山城に入り。其下桂川と呼び。遂に淀川に注ぐ。而して此の川船井郡園部より下流。舟筏を通。殊に龜岡の上りの岸濶くして流を緩し。故に並河勝林寺宇津根保津の諸村。舟棹を以て生計を營むもの多し。

此の河ハ山城嵯峨に至る。凡そ三里餘。沿岸絶壁天に懸り。岩石奇を呈し。激流雷の如く轟き。奔湍矢の如く下る。行舟極めて艱み。乗客汗背を濕まよ至る。然まとも舟

舟楫ノ通行創
モシハ角倉守善
リ

入善く操篙も熟し。絶て過つまとなし。近來洋人來りて舟を買ひ。山水の奇勝を賞するもの少なり。

小幡犬飼奥山天田の諸川。共々郡の南方神谷山の溪谷より發し。穴太村の西を過ぎ。宇津根村に至り保津川と合ふ。穴太村より穴太寺ありて尤も有名なり。

穴太寺ハ西國順礼
二十一番札所ナリ

保津溪



其南法貴村より石凝の勝區あり。上曾谷川ハ笑路村の山間より出て。春日部重利諸村の西を過ぎ。走田川とあり保津川と會ふ。

三宅川三年合川
ト稱ス

矢田川ハ杉生村の山間より起り。諸溪水を聚め。金鶴山の麓を曲流し。三宅村に至りて三宅川と呼び。下流手洗川とあり保津川と會ふ。而して此水灌漑の利最も多し。雜水川ハ下矢田村の鑿王谷より發し。龜岡を横斷し。南保津村に至り保津川と合ふ。龜岡市街の雜水。且暮此より注ぐを以て名づく。鶺鴒川ハ山城國外畑村より發し。王子村に至り池の内川と合ふ。保

津川會

三宅川に瀕せり王子廣田古世淨法寺の諸村及び北桑田郡の境上旭村の岸上の赭山砂礫常に崩潰して水中に落ち其害尤も甚し。故に明治十二年初めて砂防工事起せり。

龜岡の郡の中央より稍東北に位し。丹後但馬の諸州より京師に到る要衝の市邑にして其戸數千六百餘。國中最大の都會あり。天正中明智光秀茲に城き龜山と呼ぶ。王政革新故ありて今の名に改む。其城趾の市中の北方にありて今此に形原社及び小學校を設く。

形原社八田龜山藩主ヲ祀ル明治十四年創建ス
矢田社八田巳貴命ヲ祀ル

其東に三宅社あり。矢田社の矢田村に鎮座し。全市の氏神と云。故に祭期ふに近郷の村民群集して甚と雑沓を極む。

郡の南方に山岳少からむと雖も北方の地の繁して曠平に屬し。肥田沃野相連る。故に南方の居民に多く採樵を業とするに過ぎざ。北方の龜岡に専ら商を營む。其他に皆耕耘に従事し。其殷富國中に冠たり。是を以て其人情風俗自ら差異あり。全郡の戸數凡そ七千六百六十餘にして。人口凡そ三萬五千七百五十餘あり。

物産ハ山本篠馬堀の三村より烟草を産之。之を山本
烟草と曰ふ。犬甘野村よりハ寒天を出し。保津村よりハ
麥松茸。馬路村よりハ百合根綿小豆を産し。神崎村與奈
村より目透紙を出し。保津川よりハ香魚を漁之。其他尚
ハ大豆黃蓮茶柿杉材蜜蜂生糸硯材燧石薪炭等あり。

第三章 北桑田郡

郡役所ヲ比賀江村
ニ置ク
村落八十五
小学校十三
及別二万千五百町
九反五畝九歩
地價七十五方。三
百八十八圓七十六
錢二厘

北桑田郡ハ東方一帶の山脈を以て。山城に接し。西ハ
何鹿郡に隣り。南ハ船井郡に續き。其東南僅ハ南桑田
郡に界し。北ハ層峰重嶺起伏して。若狭と界を交ゆ。而
して全郡面積の廣き。國中第一なりと云。

地租總方八千七百
六十一圓七十六錢
六厘

知井山ハ郡の東北隅に突起して。樹木茂生し。其山脈
西に流る。五波峠ハヶ峰となる。八ヶ峰ハ北方の高山
にして。其頂上接近ハ八國を瞰臨せし。知坂峠ハ其
西にあり。即ち船井郡園部より官脇知見の諸村を過
ぎ。若狭の小濱に到る街道にして。道路險惡行步甚ど
難し。而して嶺上より若狭の海上を望めし。滄波萬里
一眸の中に入る。

棚野嶺ハ官脇村より棚野川に沿ひ。鶴岡童子の諸村
を經。若狭の高濱に通る道路の國界にあり。此より
堀越中野頭巾天狗畑の諸山。連綿として何鹿の郡界に

達

鏡坂の肱谷村より船井郡胡摩村に到る郡界ありて。其東より海老神樂室谷弓削の諸嶺相列あり。海老坂より東へて周山村を過ぎ。栗尾及び笠峠を踰へ。山城の葛野郡小野村より出づ。其南方より松尾峠あり。北方より茶吞芥生の諸嶺あり。

深見峠の周山村より弓削川の沿岸を遡り。弓削村より深見村に到る途上ありて。即ち若狭の小濱に達する街道に係り。溪谷幽邃坂路峻峻あり。此より東北國見山佐々里峠連亘して知井山に連り。其山勢怒濤の如

くふいて殆んど人跡あり。

大堰川の二源ありて。一は廣河原村の山中より出でて山城に入り。一は山城の愛宕郡大悲山の東麓より發し。南流して原地新田村に至り。二水相合し西南に流る。復び此郡に入り。片浪谷小鹽の二溪水を容る。南方より駛せ周山村に到り。國見山より發する弓削川を受け。西南に流る。船井郡に入る。是則ち保津川の上流あり。

和知川も亦二源あり。一は蘆生村の北方。灰野谷より發し。一は佐々里村の溪澗より出て。白石村の西より

來り。二水相合して西南に流る中村に至り。千坂峠より發する知見川を合せ。大野川となり南に駛せ。官脇村の南方を過ぎ。西に折きて島村に至り。棚野峠より來る所の棚野川と相會し。西南に流る船井郡和知谷に入り。和知川とある。即ち由良川の上流あり。

馬場滝高十四丈四尺幅二間

瀧又滝高六丈九尺幅二間

馬場滝は弓削嶺にありて。絶壁斷崖の間懸り。恰も一條の素練を曳くが如し。甚ど壯觀と爲す。下流は西に流る官脇村に至り。西南に折る和知川に注ぐ。滝又瀑は瀧村にありて。注瀉餘沫を飛せ。又奇觀と云ふ。其下流は小畑川とあり。遂に大堰川に會す。

弓削深見國見佐々里の諸嶺に。郡の中央西南より東北に綿亘し。以て地勢を兩斷し。而して其東南大堰川に浴ひたる周山比賀江井戸諸村の邊り。僅に平地を見るのみ。土俗之を總稱して山國郷と曰ふ。其西北の地方に。官脇嶋平尾の諸村を除くの外。峰巒重疊して居民甚ど少あり。故に南北互に其人情風俗異よせり。蘆生白石佐々里の諸村に。郡の東北隅ある山間に散在し。之を知井谷と曰ひ。土地磽确にして稼穡不便あらば。而して此近郷數里の間。樹木繁蔚せり。然まども山間僻在を以て。往來甚だ不便あり。故に纒よ其

知見谷伐材

材木代價一ヶ年凡
ノ二十万圓



木材を若狹地方より出たの外に、往々空く之を朽腐せしむるも過ぎざ。其西南知見谷の山溪の間稍闊け、居民隨て多し。皆木材を剪伐して之を齎ぎ以て生計と爲す。其之を山城地方へ出さふに、筏を浮べて和知川の上流ある大野川へ流し、官脇村に於て陸路之を運

び。海老坂を踰へ船井郡の四ツ谷村に送り。再び田原川に浮べ、保津川に下ると云ふ。

周山村の郡中の名村ありて、日用品を齎ぐもの多し。其餘屈指の村落あることなし。周山の城址は、天正中

辨天芝東西二町余
南北五十五間
廿頭余

明智光秀の城く所あり。其西朽木村に、辨天芝の牧牛場あり。其南に丹波少將成經の舊蹟あり。周山の北

禪宗光嚴上皇勅シ
テ創建ス寺域二千
四百坪

井戸村に、常照寺の禪刹あり。光嚴帝後花園帝の二陵は、其後よりあり。

郡中山嶺起伏シテ、耕地甚ど少し。故に居民伐木と獵獸を以て生計とあずもの多し。戸數は凡々四千百四

十ふして。人口ハ凡そ二萬四百二十餘あり物産ハ山國弓削の兩郷より木材を産し。其他大豆蕨粉黃連枹蜂蜜杉皮炭薪等あり。

第四章 船井郡

郡役所ヲ園部置
警察署一
村百四十九
市邑一
小学校三十七
及別二万六百六十二
一町五反九畝十三
地價二百三十萬八千六百〇二四四十八錢二厘
地租五万七千九百六十四九十八錢八厘

船井郡ハ國の中央に位し。東北ハ南北桑田の兩郡と界し。西北ハ天田何鹿の二郡と界を交え。南多紀郡と接し。而して東南の一角。僅し攝津能勢郡と隣る。半國山ハ郡の東南。攝津の境に屹立して。郡中の高峰と云。天引峠ハ埴生より。多紀郡篠山より到る郡界あり。即ち山陰の西街道あり。此より東埴生の邊りを總

生賣觀音ハ本郷村
水戸峠ニ安置ス

稱して本梅郷と曰ふ。天引の山脈西北に延き。觀音峠とある。此峠ハ園部より須知に到る途上ふして。車馬の往來便あらむ。然るとも其坂路を避けんハ園部より少しく東南に紆回して。路を船坂峠に取るべし。

大原野ニ萩野ト
曰ヒ東西一里南北
五町
中臺野東西十八町
南北二町

須知より檜山に達する路傍に。蒲生野大原野中臺野と稱する荒蕪の原野あり。其蒲生野にハ躑躅繁生して。花期頗る美觀あり。近時漸く開墾に着手し。牧牛場とあせり。檜山より西南。水原大久保を經。天田郡に踰ゆるよハ菟原嶺ありて。道路頗る險惡あり。故に近來其山腹に浴び。旋回せる新道を開鑿し。以て人馬の往

大朴峠ハ檜山ノ西
ニアリ

來よ便也。水原大久保の諸村ハ。西方の山間よ散處し。其南一郷を爲す村を總稱して鎌谷郷と曰ふ。檜山より西粟野村よ到きハ。路岐して二とある。其左質志村を過ぎきハ。何鹿郡の駿部よ通ざるを得。右水呑を經。草尾嶺の峻路を踰ゆきハ。鷹栖よ到るべし。是を丹後の舞鶴よ達する街道あり。郡の北境和知谷より。金打山大國嶺並立して。何鹿の郡界を限劃し。其東和知川を隔て。鏡海老坂葛坂の諸嶺。蜿蜒として北桑田の郡境よ並列を。而して海老坂ハ園部より殿田を經。北桑田郡宮脇村よ到る郡界

ふ在り。其南一帯の山麓を胡麻野と稱也。帝釋山朝日山の殿田の東方よ聳え。鞍谷山の保津川の北岸あり。大堰川の東方。北桑田郡より來り。西流して殿田に至り。海老坂の溪谷より出る田原川を容き。藤田川と稱へ。直ちよ南流して鳥羽村よ至り。鳥羽川と稱へ。園部川と合し。漸く大河とあり。八木の北を過ぎ。南桑田郡よ入り保津川とある。

園部川の郡の東南隅。大河内村の山間より發し。北流して舟坂村よ至り。埴生大谷の山間より發する旭川を受け。園部の北より東よ流き。保津川よ會也。而し

旭川三梅川云

て。園部よりして下舟筏を
浮ぶるの便あり。

和知川の北桑田郡より來
り。佛住村より出づる高屋
川及び水呑の山間より出づ
る保井谷川を併せて。和知
谷を横斷し何鹿郡ふ入る。
須知の東市森村より琴瀑
ありて。懸水壁上より瀉下
り。恰も練匹を垂るゝが如

園部大橋



し。甚ど奇觀と云其下流保井谷川より入る。凡そ和知川の
沿岸ハ。奇崑怪石多く。加ふるよ水聲涼然。人胸を以て
爽然たらしむ。

園部ハ郡中の廣邑ふし。戸數七百餘。商估軒を並へ
て百貨を鬻ぎ。或ハ國産を商ふを以て業と云。故よ四
近來りて市をあた。街中よ天神社あり。菅右相を祀は。
郡中到る處山岳多くして。平地を視るふと少し。東南
園部より。南桑田郡よ到るの間。土地稍平坦あり。中よ
就て八木廣瀬大藪の邊りハ。肥田沃野多し。郡民の生
計。概ね農を業と云。其戸數凡そ壹萬七百六十餘ふし。

て。人口ハ凡々四萬九千九百五十餘あり

物産ハ和知谷諸村より畑子茶を出し。木崎村より籬
を産し。本梅郷諸村より木賊椋葉を出し。而して桑酒木
綿ハ八木より製し。剃髮砥ハ大内村より出さ。其他香
魚大豆蔞弱玉茶粟松茸柳百合根杉材石灰炭薪等あり。

第五章 何鹿郡

郡役所ヲ綾部置
市邑ニ
村落八十三
小学校三十
反別壹万九百五

何鹿郡ハ州の北方よりありて。東ハ若狹の大飯郡に隣
り。西ハ天田郡に接し。南ハ船井北桑田の二郡に界し。
北ハ丹後の加佐郡と向背相接し。而して地勢東西に

十町三反四畝二千
四歩
地價百五十三万十
二百三十四千五
五錢
地租三万八千七百
八十三百三十錢
九厘

鷹栖ヲ山家ト云
フ

長くして。南北に縮まる。

郡の四境ハ。連山起伏して。頭巾天狗畑洞の諸嶺ハ。北
桑田郡の界に並峙し。頭巾山最も高し。天狗畑の西に。
若尾山屹立して。其半腹に光時寺の伽藍あり。尼來屋
公長谷口猪鼻の諸嶺ハ。若狹の境上に列し。而して長
谷口嶺ハ。鷹栖より上林川を遡り。径路若狹の大飯郡
川上村に到る國界にあり。

三國山の東南隅に聳えて。若狹丹後に跨り。護摩嶺其
西に連りて。老富村より丹後の市場等に通じり。坂路
小係より。菅坂神子小吹幾見大般の諸山の。郡の東南

彌仙岳北海遠望



み連亘し。丹後の加佐郡の東方と腹背を爲す。其南の彌仙岳ハ。郡中の高峰ふく。巔より北海を望むべし。其西。國界の山脈中ニ。久美田小原尾坂古路枯木千原烏の亂山。高下して加佐郡の西方と相接す。横嶺ハ鷹栖より梅迫ふ到る中間ニあり。梅迫より北方。黒田嶺

を踰ゆるを。丹後の舞鶴ニ通ぶる街道とす。

鷹栖より和知川み沿ひ。西行一里半ふく綾部ニ達

し。綾部より猶岸み沿ひ西行するふと三里餘。則ち福知

山ニ到るべし。綾部より南行すれば。天田郡大原村ニ

到るべし。又鷹栖より南ニ進めハ。船井郡水呑ニ通じ

即ち檜山に到る街道あり。

郡中東南北の三方。山脈連綿たるを以て。中央自然ニ

凹状を爲す。故ニ川流も皆中央ニ會合を和知川ハ北

桑田郡ニ發し。船井郡を過ぎ。鷹栖の東ニ來り。西南ニ

折る。綾部の北方より。直ちニ福知山の北ニ入る。

上林川ハ老富村の溪間ニ發シ。尼公嶺より出つる古和木川を受け。西南ニ流シ。古屋尾田の二川を容れ。五津合村の北ニ至リ。管坂嶺より發スル畑口川と相會シ。南ニ流シ山家の南より和知川ニ注ぐ。上林川の上流山間を總稱シて上林谷と曰ヒ。居民尤も少シ。又其五津合六津合等の村名ハ。王政維新の後數箇の村落を合併シたるの稱アリ。

於與岐村の彌仙山より出づる溪流ハ。黒田村の西を回流シ。舞鶴街道ニ從ヒ丹後ニ入り。伊佐津川とある。上杉川ハ梅迫の山間より出で。西南ニ流シ淵垣下ハ

田二村の西北を過ズ。和知川ニ入ル。犀川ハ物部郷の溪谷より發シ。西南ニ流れ西方別所西坂の三川を受け。南ニ馳セ。小具村の東より和知川ニ會ス。

綾部ハ郡中の廣邑ニシテ。居民凡そ千五百餘近郷の人民此ニ轉リて市をなシ。小繁華の地アリ。此より西北田野大ニ開ケ。人家尤も多ク。耕耘の利洪アリ。其餘ハ鷹栖の近郷。少シク平土を見ルニ過ギズ。其上林川の邊リハ。土地漸ク高クシテ。菽粟蕎麥の屬を植ユルニ適スルヨシ。是を以テ冬時ニ向ヘシ。人民多ク出デ。京阪ニ役ス。俗之を百日稼と唱フ。戸數ハ凡そ九千

餘一〇〇〇人口ハ凡そ四萬二千二百四十餘あり。

物産ハ綾部及ヒ位田村ノハ木綿を製シ。上林郷ノハ

生絲を産ス。五津合村ノ邊リノハ材木茂薪を出シ。和

知川ノ香魚を漁ス。其他楮綿茶胡桃油大豆百合根烟

草荀松茸紙牛蒡等あり。

第六章 天田郡

天田郡ハ國ノ西北端ニシテ。東ハ何鹿船井ノ高郡接シ西ハ

但馬ノ朝來出石ノ二郡ニ界シ。南ハ氷上多紀ノ兩郡

ニ隣リ。北ハ丹後ノ與謝加佐ノ二郡ニ連ル。而シテ地

勢西北より東南ニ延長シ。其中央ハ南北ノ距離甚

郡役所ヲ福知山ニ置ク

市邑一

村落百十三

小学校三十三

及別荘方七百四十

五町三反四畝八歩

地價二百二十三万

六千四百八十八圓

狹隘あり。

鬼ヶ城山ハ福知山ノ北方。丹後ノ國境ニありテ。聳然

群山ノ表ニ出テ。洲中第一ノ高峰あり。其西北長尾黒

神俵加納ノ諸嶺。各處ニ峙立シ。郡ノ西北隅より。丹後

ノ河守驛ニ達スル山路ニ係ル。山下山谷三嶽神宮寺

ノ諸嶺ハ。小野原天座ノ諸村より。丹後ノ與謝郡加悦

谷ニ出づル路傍ニあり。其三嶽ハ山勢突兀衆山ノ上ニ

擢ンテ。最も高峻ありト云。

三國山ハ西北隅ニ屹立シテ。丹後但馬ニ蟠カス。是ニ

山名ノ由テ起ル所あり。其南登尾峠ハ。福知山より立原

ノ由テ起ル所あり。其南登尾峠ハ。福知山より立原

六十五錢九厘
地租五万五千六百
六十壹圓八十七錢
五厘

小野原を經。但馬の出石郡久畑村へ踰ゆる坂路あり。甚ど險惡あり。立原の北。大呂村。天寧寺の巨刹あり。

富岡山ハ宮垣村ニアリテ銀銅ヲ産ス。一次休廢應三年再鑿ス其採出一ケ月銀凡ソ三百二十匁銅凡ソ百匁貫目

富岡鐵鉛二國の三山ハ。西南の高峰ありて。直見牛尾の二嶺ハ。富岡山の左右に並列し。千原峠ハ。額田より氷上郡遠坂村に通ずる郡界にあり。烏帽子山其東に峙つ。土師川の上りより岩間村の塩津峠を踰え。氷上郡下竹田村へ出づるハ。大阪街道あり。其西北掘村に一宮社あり。

富知山の東。江戸坂を踰え。生野に到る街道の北に當

大野ハ東西二十三町南北六町余舊岩崎等六村ニ置ル
一三長田野ト云フ

りて岡陵あり。之を大野と曰ひ。近來陸軍の演習場とふ。其南端岩崎村の千歳山。及び生野の南方袂森ハ。一の勝地あり。

郡中東西の地方ハ。山峰層々として。中央稍平坦あり。而して一帯の山脈。西南千原峠より立原の東南に至り。地勢を兩斷す。故に郡中の諸川。皆其方向を異なせり。

福知川ハ音無川ト曰フ

和知川の何鹿郡より來り。福知山の北に至り。福知川と稱す。此より鬼ヶ城の山麓を回流し。丹後に入りて大雲川とある。此水流本州の一大河ありて。丹後の由

良港より舟楫遡りて福知山に達す。

土師川の源を船井郡八田郷の溪谷より發し。西流して大久保川と合ふ。菟原峠の北を曲流し。大原竹田の二溪水を受け。生野の北より直ち福知山の東に來り。和知川と相會す。大原川の上流に大原社あり。和久川の郡の中央。氷上の郡界小牧村より發し。二三の溪流を合せ。北向して和知に注ぐ。和久川の上り今安村に天聖玉社あり。牧川の郡の西南隅。富岡鐵鉦二國諸山の間より出づ。東北に流す。鳥羽街道の南に沿ひ。額田の南を經野花村に至り。小野原の山間よ

り發する佐々木川と會し。

北流して和知川に注ぐ。

福知山の郡中の小都會よりして。其戸數千二百餘。舟楫

の利運搬の便を得るを以て。商賈塵を列ね。百貨の交

易尤も多し。故に丹後但馬

の商品。此地より輸送する

者多しと云ふ。福知山の北

方あり。福知川漾々として

小

福知山ヨリ鬼ヶ山城ヲ望山



流き舟艇常ふ上下。鬼ヶ城山巍然として雲漢に接し。其麓ふの村家散在し。且夕の遙望尤も美し。郡中福知和久兩川の濱りの地勢平坦ふして田野善く開け。隨ふて道路平廣あり。然とも其他の山層り谷迫り。農耕に適らるの地甚と少し。全郡戸數凡そ一萬一千五百七十餘あり。人口凡そ五萬一千三百九十餘あり。物産ハ福知山よハ生絲茶を産し。福知川よハ鯉香魚を漁と。其他桐實牛蒡粟柿葛粉木綿藍木材人參黃連等あり。

學小丹波地誌終

地誌 輿書

明治十五年二月廿七日版權願
同年四月六日版權免許
同年十月 刻 成

定價金拾三錢

纂輯者 京都府平民 遠藤茂平

下京區第四組堀之上町 百五番地 京都府平民

出版人 村上勘兵衛

上京區第廿九組曇花院前町 四百五十三番地

